

献燈の灯りで幻想的な境内
昨年の「献燈祭」の様



竹の雪洞に火を灯します(写真上)
やはりこの日は浴衣が映えます(写真下)



余香殿の前は天神麦酒庭園で賑わいます

天神麦酒庭園(ビアガーデン)で和気あいあいの「なおり」を楽しみます。拜殿向かって左、余香殿なおらいの前ではご家族連れや友人たちが集い、献燈の灯りを愛でながらビールで喉を潤し、ご用意した美味の数々でお腹を満たしています。晩夏の宵、天神山の賑わいはまだまだ続きます。

謝、日本の礎となられたご英霊、そして災害の犠牲になられた皆さまに慰霊の真を捧げ、明日への希望を祈ります。
しばらくすると、とつぷりと暮れた境内には竹の雪洞とロウソクの灯りがつくり出す美しい夜の天満宮が現れます。揺らぐ炎は、じつと見つめていても飽きません。御祭神に手を合わせ、息災である今を感謝申し上げます。



文月(七月)のおまつり

とどけ1,000人の願い
岩津天神七夕祭
七月一日(日)~七日(土)



七夕の笹竹は神様や精霊が宿る依り代(よりしろ)です。そこに願いを記した短冊を飾り付け、願い事が叶うようお祈りします。この国に古来から伝わる神様と人の交流のかたちをそこに見る思いがたします。岩津の天神さんの七夕祭には毎年、子どもからご高齢の方まで一干を越える願い事が寄せられ、拜殿から余香殿なおらい、そして神楽殿までを七夕飾りで彩られます。

◎願い事短冊 六月の上旬より、社務所、余香殿なおらいに設置します。その場で願い事をご記入ください。(無料)

服部長七忌・ 道具供養祭 七月十八日(水)

服部長七翁は当宮・服部宮司の曾祖父にあたります。長七翁は土木分野の天才で、コンクリートよりも堅牢な人造石・長七たたきを考案しました。

後、カンボジア・アンコール遺跡の修復でもこの技術が使われ、地球環境への配慮や技術の先進性は世界の認めるところとなりました。

晩年は岩津天満宮の復興に情熱を注ぎました。越中自立山・芦峯寺の大阿闍梨・佐伯鑠禪師の依頼を受け火事で荒廃していた岩津天満宮を中興したのです。

七月十八日は翁の命日にあたります。この日長七翁の遺徳を偲び、人の暮らしに役立つ道具の供養と、技の発展を祈る道具供養祭を執り行います。

併せて、飛梅殿では岩津天満宮に残る服部長七翁の遺品やゆかりの品々を展示する「服部長七展」を開催します。■「服部長七展」は、自由にご覧いただけます。閲覧のご希望は職員にお申し出ください。



大祓式 同日午後五時より拜殿にて/人形清祓い

夏越しの祓い・輪くぐり神事
六月二十四日(日)/茅守り進呈
一回目 午前十二時~ 二回目 午後二時~

ら病除けの神様として知られています。その御神威をこめた茅守りをご参列の方に差し上げます。夏越しの祓い・輪くぐり神事は、午前午後、二回執り行われます。

さて、同じ日の夕方からは半年に一度の大祓式が執り行われます。和紙の人形(ひとがた)に息を三度吹きかけ、無病息災を天神様に祈願します。



職員が手作りで準備した茅守り

葉月(八月)二十五日 献燈祭

木々の葉が落ちる頃で葉月。新暦盛夏の風景とは異なります。その葉月最後の縁日の日、岩津の天神さんで執り行われるのが「献燈祭」です。

頃合いからも献燈は、お盆との関連が思われます。ほのかな灯りでもつご先祖さまをお迎えする、お見送りすることは古来からの習わしです。日本は神様と仏様が和する国です。この献燈もその和やかさから生まれた行事です。

午後六時、まだまだ明るさの残る境内で浄火を雪洞に灯し始めます。天神山は古来より粗霊が宿る聖なる地でした。そして、熱田神宮と砥鹿神社奥宮を結ぶ線上のほぼ中心に岩津天満宮は鎮座しています。この聖地・天神山で灯りをともし、ご先祖さまへの感謝



浄火の準備も整い
まもなく岩津天満宮の宵宮祭「献燈祭」が始まります